

# 京都桂研究所を開設

## バイオマーカーサイエンス

### 機能性食品評価の手法開発へ

### プロテオミクス等先端技術を導入

機能性食品評価のバイオベンチャー、バイオマーカーサイエンス(大阪市中央区、06-6-943-1011)高業仁社長は、京都市西京区の京大桂ベンチャープラザに、ゲノム・プロテオーム解析装置などを備えた京都桂研究所を設立。4月5日、現地に大学関係者、ユーザー企業の研究者等を集め開所式および披露パーティーを行った。同社は大阪商工会議所が主催する「機能性食品開発研究会」を母体に結成された。機能性食品の疾病予防効果を評価する手法開発を旨とする産学連携コンソーシアムの中核として、研究会会長の吉川敏一(京都府立医科大学教授)取締役に就任。今月初めにはアンチエイジング(抗加齢)医療支援事業への進出を発表しており、今後の活動が各方面から注目されている。

バイオマーカーサイエンスは、大阪府立医科大学の京都桂ベンチャープラザに、ゲノム・プロテオーム解析装置などを備えた京都桂研究所を設立。4月5日、現地に大学関係者、ユーザー企業の研究者等を集め開所式および披露パーティーを行った。同社は大阪商工会議所が主催する「機能性食品開発研究会」を母体に結成された。機能性食品の疾病予防効果を評価する手法開発を旨とする産学連携コンソーシアムの中核として、研究会会長の吉川敏一(京都府立医科大学教授)取締役に就任。今月初めにはアンチエイジング(抗加齢)医療支援事業への進出を発表しており、今後の活動が各方面から注目されている。

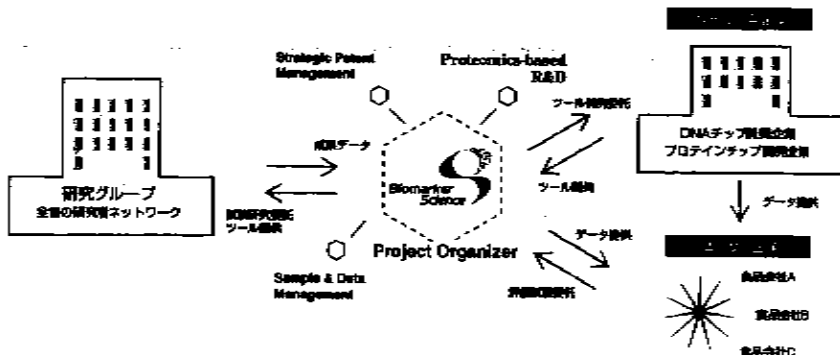
高業仁社長

吉川敏一教授

同社が大阪府立医科大学の京都桂ベンチャープラザに、ゲノム・プロテオーム解析装置などを備えた京都桂研究所を設立。4月5日、現地に大学関係者、ユーザー企業の研究者等を集め開所式および披露パーティーを行った。同社は大阪商工会議所が主催する「機能性食品開発研究会」を母体に結成された。機能性食品の疾病予防効果を評価する手法開発を旨とする産学連携コンソーシアムの中核として、研究会会長の吉川敏一(京都府立医科大学教授)取締役に就任。今月初めにはアンチエイジング(抗加齢)医療支援事業への進出を発表しており、今後の活動が各方面から注目されている。

機能性食品の効能評価に関するプロジェクトでは、大学の役割(図参照)は、大学等研究グループと企業の間に入り、プロジェクトとして、研究プロジェクトのデータ管理、特許業務、進捗管理等を行うとともにプロジェクトの核となるプロテオミクスを中心とした研究遂行にある。その実績を指すのが、このほど開設した京都桂研究所(取締役研究所長・三原憲一氏)である。同所は、先進のプロテオミクス技術を導入し、バイオマーカーの検索から精製・同定までを中心に行う。特にバイオマーカー検索には、サイファ・プロジェクト社(SELIER)のProteinChipを利用した網羅的なプロテオーム解析を行い、検出感度・分解能の高いバイオマーカーの発見を目指している。同社はバイオマ

機能性食品の効能評価に関するプロジェクト体制



ーカーを利用した新規の臨床検査診断関連事業にも進出しており、疾病予防マーカー、疾病特異的バイオマーカーと産学連携バイオマーカーとを併用したまったく新しい疾病・健康モニターの診断システムの開発を進める。開所式当日は、フリーランスの第一級研究者、機能性食品の研究開発に取組むユーザー企業の研究トップが参加し、最先端の研究設備を備えた所内を順次視察した。高業社長は、開所式の挨拶で、日本を代表する文化都市京都の歴史についてふれ、「京都はベンチャー産業の伝統ある聖地であり、当社もこの伝統を引き継ぎ、予防医療分野のベンチャーの成長を促していきたい」と決意を述べた。